

二〇〇五年

一月一日

一時半頃、磯崎宅より世田谷村に戻る。磯崎新論何とか今年中にまとめたと思うのだが、磯崎さん自体がまだまだ自在に、いよいよアナーキーに動いているので、何ヶ月毎にあるいは年毎に切り口を変えないと書き切れぬ確信が強くなるばかりだ。中国への関心が深まっているようなので、その関心への論述から入るべきか。ともあれ、毎週書きすすめたい。九時過起床。母は何かをしてないと落ち着かぬ人のようで、家の中のしつらえとか花の位置を小まめに変えている。先年、収納の箱をアツという間にデザインして作ってしまったのには驚いたが、次女はこの血を継いでいるのだなあと思う。マン・レイの展覧会のカタログ読みふける。昨夜磯崎宅より持ち帰ったen + AXIも通読。磯崎新の近來の自然的戦略を知る。山口勝弘先生に新年のごあいさつの電話を入れる。午後屋上菜園に上り、水仙の花とブルーベリーを切り屋内へ。手にブルーベリーの匂いが移り気持ち良い。

一月二日

十一時前多摩プラーザの山口勝弘先生を訪ねようと世田谷村を発つ。十二時三〇分多摩プラーザ着。坂道の上から富士山が見事だった。雪が残る正月の午後の光の中を信頼する老芸術家に会いにゆくというのは嬉しいモノだ。山口さん昼食中で部屋に不在であったが十五分位で戻られた。車椅子状態に変わりは無いが、驚

く程に明晰な話しを続けられて、頭脳^{II}知覚は全く衰えを見せていない。お話しなさいたい事が山程ある様で、エネルギーギッシュに語りかけられて少し計り、又も、圧倒された。話しの内容の何がしかは山口勝弘ギャラリーに収録したので御覧を。十四時半、余り長居してはよくないと考えて失礼する。「チャオ」だってお別れの挨拶は。一年前に色々とお話しをうかがった事の細部迄記憶されているのにはいささか、たじろぐ。再び坂を登り、下り坂の途中のとんこつラーメン七志でラーメンを食す。まずくもなくうまくもない。十六時過世田谷村に戻る。元旦の朝は宮脇愛子、二日は山口勝弘と実験工房の芸術家に連日会い、私の銅板画数点を差し上げる事が出来て良い幸先を開ける事が出来た。

夕暮の西の空に宮脇愛子さんのところの、天文台の時刻 恋人たち、の雲が浮いていてギョツとした。ギャラリー山口勝弘5枚書く。開放系技術・デザイン論³⁰枚まですすめた。

一月三日

冷水さんから送られてきた町家シリーズの絵の写真を三階の私のコーナーに飾る。彼は不思議な人だ。着々とやっているな。ワークショップに参加し続けた人の中から数人、今の時代を乗り切れそうなライフスタイルを暗示させるような人材が生まれているような気がして、これは良い。冷水さんはキルティプールの空気を良く感じられた。昼過世田谷村近くのコーヒーショップで原口万治さんと会う。原口さんは七〇才でまだ現役の勤め人である。区画整理事業では日本一のコンサルタント会社で働いている。

休みの日の原口さんの日課は朝超高齢のオバアちゃんの世話や、何やらを充二分にして、それから烏山駅の近くまで出掛け、バスに乗って成城学園駅まで、小バスツアーを敢行する。成城学園で

は決まりのコーヒーシヨップがあるらしくて、その窓際の席でコーヒーを飲みながら読書。ネパール奥地の探険紀行やら、不思議な本を読みふける。色々な事情があつて家族の世話をしなくてはならず、それで、ある時期から自分の欲、例えば世界の何処に行きたい、あれもこれもしてみたいというような普通の欲は捨ててしまった。昔は原口さんは某ゼネコンのバリバリの仕事師であつた。地あげしたり、住民運動に対応したりの毎日であつた。そんな毎日と、極く極く通常の欲を、家族の平安の為にある日全て捨てた。私に言わせればいきなり解脱した。だから私の娘がアメリカから帰れば、写真見せて、アメリカの話して、だつて僕、アメリカ行けないから、とそんな風な事を自然に言つ。知り合つたばかりの頃はそんな原口さんの生き方が全く理解できなかった。理解しようという気持ちにもなれなかつた。

今は、私には彼のような生き方は出来ぬけれども、アレも生き方の一つなんだらうと言つのは解るようになった。身体ではまだ解らぬけれど、頭では解る。少なくとも、解らうとせねば、人間としての品位に欠ける位の事は了解できるようにはなつた。つまり、冷水さんや、広島の木本君のライフ・スタイルを好ましいものだと思うのと同様な事だ。

一月四日

朝、屋上菜園に生ゴミ埋める。富士山には雲がかかつていて全体は眺められない。遠望する富士は近くに眺めるよりは、まだまだしなところがある。反対側、つまり東には森ビルと東京タワーが視える。この三者は同じようなモノの様な気がする。山口勝弘ギヤラリー、一枚書き加えた。木本君より送られてきたスケッチへのコメントを書く。ゆっくり、確実に、やる。

十二時研究室。開放系技術デザイン論に手を入れる。カバールーム、一本書く。夕方、新宿高島屋13Fのソバ屋で社長若松氏と会食。少し食べ過ぎた。

一月五日

朝、スタジオ・ヴォイス森の生活特集読む。十一時過研究室。今日からスタッフも顔を出し始めている。

一月六日

八時五〇分世田谷村発。昨夜は大阪のM氏多摩プラーザの山口勝弘氏に私信。調布のB邸現場へ。なんとかしてウィトリー又の現物をもう一度見たい。九時二〇分調布B邸現場。昼には研究室に戻るつもりであつたが、遂々、現場の空気に引張られて十七時過迄現場にはりつけられてしまった。昼食は河野鉄骨社長等と和風定食。重機と職人達の動きの組み合わせが実に面白い。星の子愛児園の道具の組立て時に感じた事を再び確認した。ロボットと人間のチームが何かを作り上げてゆくのをしているのだ。

小建築、と言つよりも住宅、住環境のつくられ方は小重機と人間の組み合わせが一番合理的なのだ。しかし一日中凍てつく寒さの中で外に立ち通していたので、体が冷えきつた。十八時三〇分宗柳で一人夕食。白菜ナベ他とかけそば。